

神話スライド s e t シリーズ

からす座

スライド枚数 : 14枚
時間 : およそ5分から7分
イラスト : 三善 和彦
: 高部 哲也
※ 音響テープあり

LIBRA CORPORATION



+音変わり



1. 昔々、からすは銀色の翼を持ち、人の言葉をはなす賢い鳥でした。
うそをつくのが唯一の欠点でしたが、たいへんよく働くので、太陽の神アポロンは、からすを、使いの鳥としてそばに置いていました。



2. ある日のこと、アポロンは、からすにコップを渡し、泉の水をくんでくるよういつけました。



3. 早速、コップをくわえて出かけたからすですが、泉のほとりで、実をたくさんつけたいちぢくの木を発見。
いちぢくはからすの大好物でした。



4. 喜んで、実をつついたからすでしたが、まだ実は青く、硬くて食べられません。「よし、熟れるまで待っていよう。」からすは、アポロンの使いのことなどすっかり忘れ、木の傍らで寝て待つことにしました。



5. 「まだかな、まだかな。」いちじくの実が熟したかどうか、時々起きては確かめるからす。

(p)



6. どのくらい待ったでしょうか。からすが起きてみると、いちじくがルビー色に熟れ、いい匂いをさせています。

「わーい、いただきまーす。」
からすは夢中になって食べました。



7. しかし、お腹がいっぱいになったからすは、泉を見て、ハッと、しました。「しまった、水汲みの途中だった。」



8. 「どうしよう、このまま帰ったらしかられてしまう。」
アポロンになんといったらよいかと途方にくれていると、
「ぱしゃ。」と、小さな水音。
ふと見ると、水面に一匹のへびが顔をだしています。
「そうだ、これだ。」
へびを見たからすは、ずるいことを思いつきました。



9. そして、何を思ったか、そのへびをわしづかみにすると、急いでアポロンのもとへ帰りました。

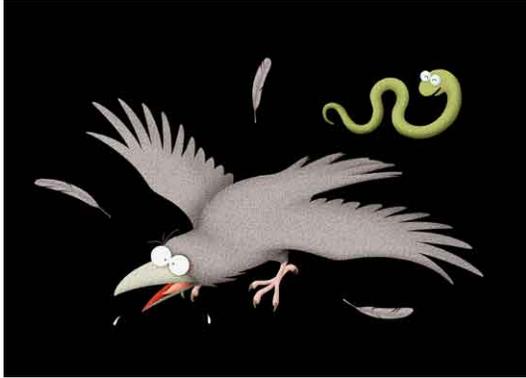
(p)



10. 神殿へ帰ると、アポロンが難しい顔をして待っていました。
「アポロン様、申し訳ございません。実は、このへびに邪魔をされて水をくめませんでした。」
つかまえてきたへびとからっぽのコップをアポロンに見せながら、からすはべらべらとしゃべり始めました。
アポロンは神様ですから、もちろん、すべてお見通し。



11. 「何を申すか、このうそつきからすめ！こうしてくれる！」
アポロンはかんかんに怒り、「カーッ！」とからすにいかづちを落としました。



12. するとどうでしょう、からすの銀色の翼は真っ黒に、声もひどいしわがれ声になってしまいました。
「カー」



13. それでも、からすは長い間神に仕えた聖なる鳥でしたから、泉のへびとアポロンがもたせたコップとともに天にあげられ、星座になりました。からすはうそつきの罰として、銀の釘ではりつけにされ、コップの水を目の前にしながら、永遠に、のどの渇きをいやすことができない運命となったのです。

からす座の4つの星は、その銀の釘が光って見えていたんですね。